



## 新たなステージへ・・・

# 回復期リハビリテーション 病棟、130床へ

2016年3月、今日まで療養病棟であった4A病棟（50床）が回復期リハビリテーション病棟へと機能転換します。現在、病棟のリニューアル工事がすすめられ、装いも新たに再出発します。当院の歴史を振り返りますと、1982年12月に病院を開設し、翌年1月より一般病床48床で保険診療を開始し、急性期病院として救急医療の提供も行いました。21世紀に入り、地域における急性期医療体制は公立・公的医療機関により整備から成熟の域に達しました。一方では2000年4月、介護保険法が施行され、今後医療は在宅へシフトすることが予期され、それまでの病院完結型医療から地域の医療機関が患者を中心にそれぞれの役割をもって連携し、地域を支えるという地域完結型医療へと大きく舵を切っていきました。このような医療環境の変化の中、当院は住み慣れた地域での慢性期医療の提供を行う分野を担うこととし、一部介護病床を備える療養型病院に転換することとなりました。併せて通所リハビリセンターを開設、またその後通所介護施設（デイサービスセンター）を開設しました。そして2008年、新たに回復期リハビリテーション病棟60床を開設し、当院はリハビリテーション医療を核とする病院へと転換をしていきます。2010年には介護療養病床を医療療養病床へと転換し、今日の医療体制が整います。2011年には東日本大震災への医療救護班の派遣。2012年からは「地域とともにすこやかなまちづくり」、そのための「病院の質のよりいっそうの向上」を基本方針とし、病院創立30周年を機とした次のステージへ向かうための病院増改築事業に取り組みました。2012年病床再編成、2013年「回復期リハビリテーション病棟入院料1。（回復期リハビリテーション病棟の中

で最も充実した体制を備える病棟を評価する施設基準、滋賀県下では当院のみ」を取得。2014年第I期増改築工事（病棟増築）が終了し、1看護単位60床1病棟であった回復期リハビリテーション病床を1看護単位40床2病棟に増床、療養病床120床を100床に縮小し病床の再編成を行いました。計画から3年に及ぶ増改築工事はその後、外来診察ゾーンの全面移転、通所リハビリセンターの拡充、入院療養環境（アメニティー）の改善、地域研修センターの設置、職員福利厚生施設の充実、電子カルテの導入等を行い2015年2月に完了しました。一方、国においては医療機能の分化と地域における医療機能の連携、「地域包括ケアシステム」の整備が加速度的にすすめられ、各医療機関には自らのポジションの再確認とミッションの明確化が求められ、2014年秋には「病床機能報告制度」、地域では「医療構想」の検討が始まりました。これら一連の医療環境の変化の中当院は今後、リハビリテーション医療を核とし、急性期と在宅医療を担う医療機関と連携する「回復期の医療機能」を提供する病院としていっそうの充実を図っていくこととしました。このような経過をもって今回の病床再編成に至っています。新たなステージに向かう琵琶湖中央病院への深いご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

回復期リハビリテーション病棟患者推移

